

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320134

研究課題名(和文) 拓本調査を基盤とする日本金石文の情報資源化と歴史叙述への応用的研究

研究課題名(英文) Reseach on Japanese Inscription for Its Historical Information and Historiography

研究代表者

菊地 大樹(Kikuchi, Hiroki)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号：80272508

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、拓本の所在情報調査及びサンプル収集を通して歴史資料論・歴史叙述法を探るものである。東日本は宮城県・青森県、西日本では奈良県・徳島県をフィールドとして研究活動を展開し、「勝倉元吉郎拓本史料」、「阪田二三夫拓本史料」について調査・研究を進め、目録を公開した。拓本サンプルの採集では、徳島県吉野川流域および青森県津軽平野に分布する板碑群に注目し、調査を実施し、東京大学史料編纂所に架蔵して研究・公開を進めた。プリンストン大学東アジア学プログラムと協力して同大学においてワークショップを開催し、研究成果を発信した。東京大学史料編纂所金石文拓本データベースに歴史地理情報を付加し、公開を進めた。

研究成果の概要(英文)：This research has been worked on takuhon(ink rub) for its historiographical use. We were active in Miyagi,Aomori, Nara and Tokushima Prefecture. In conclusion we have published the Catalogue of Katsukura Genkichi takuhon and Sakata Fumio takuhon. Regrading the investigation of takuhon sumple, we have researched itabi along the Yoshino River in the Tokushima prefecture and in the Tsugaru Plain in Aomori Prefecture. The sources as the result of our investigation is shelving in the Shiryohensanjo library for the open research. We have held a workshop on our project's topic in collaboration with East Asian Studies Program, Princeton University for opening our research results to the public and feedbacking to us. We have been developping the Inscription "Database of the Ink Rubbing Copy of Inscriptions" at the Historiographical Institute by adding historio-geographical information.

研究分野：日本中世史、日本宗教史

キーワード：金石文 石造物 板碑 歴史情報資源化 歴史叙述 中世宗教 拓本 金石文拓本史料データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代以降、歴史学においては史料論の再検討にもとづく、「新しい」歴史学が模索され始める。その結果、歴史学・民俗学・考古学・地理学・美術史・建築史等、多くの分野における縦断的共同研究の可能性が追及され、徐々に成果を挙げてきた。その結果、クローズアップされてきた史料分野の一つが、金石文研究である。

(2) 金石文研究においては、金石文の刻まれた石材の材質や形態、文字的要素、図像的要素立地の景観など様々な見地からの分析・見当が必要であり、いわば新しい歴史学にとっての「プラットホーム」となりうる可能性を秘めている。この30年間において、このような立場からいくつかの優れた研究が発表されてきたが、一方現在では、次の段階に進むための方法論的検討も必要とされてきている。

2. 研究の目的

(1) 日本金石文の歴史情報資源化を通して、日本史研究および歴史叙述への応用の可能性を追求することを目的とする。そのために列島諸地域の中から金石文密集地域を選定し、地域史研究を展開してきた研究者・研究機関との連携のもと、学際的な環境において現地調査を実施する。

(2) 伝統的な研究意識によって、各所蔵研究機関に蓄積されているが、必ずしも現在の研究に活用されていない良質な拓本史料群を選定し、調査を進める。

(3) 研究代表者が進めてきた金石文の編年史料化・史料学研究をさらに発展させながら、最終的に金石文史料による新たな歴史叙述を実現し、学際的・国際的な成果を発信する。

3. 研究の方法

(1) 東日本・近畿地方・西日本にそれぞれフィールドを設定し、分担者と連携しながら拓本調査を中心に研究を進める。また拓本とともに、GPSによる最終地点の地理情報の記録蓄積を進める。

(2) すでに概要を把握しており、研究代表者等が勤務している図書館・研究所・博物館等所蔵拓本群の詳細調査を行い、目録化あるいはデータベース化する。

(3) (1)(2)の基礎的調査にもとづき、書誌情報・画像情報をデジタル化し、歴史情報資源化研究を進める。東京大学史料編纂所金石文拓本史料データベースを改良し、新たに荘園村落遺跡などにおける歴史的ランドマーク等の歴史地理情報と融合させ、個別の金石文の歴史地理学的なコンテキストを明らかにする。

(4) 以上の歴史情報資源化を前提として、地域史研究に軸足を置きながら、代表者等が取り組む中世史・宗教史・歴史考古学・歴史地理学等の各分野に金石文史料を応用する

方法について考察する。

4. 研究成果

(1) 東京大学史料編纂所所蔵拓本史料の詳細調査によるデータカードの校正、元興寺文化財研究所所蔵阪田二三夫拓本史料のカード化・写真撮影、東日本大震災で被災した宮城県石巻市故勝倉元吉郎所蔵拓本の救出および整理・調査等をおこなった。史料編纂所拓本の調査成果については、データベースに登録して公開した。阪田拓本および勝倉拓本については、それぞれ史料目録を作成し、東京大学史料編纂所研究成果報告2014-5,2014-6として刊行した。

(2) 埼玉県荒川上流域の板碑調査、宮城県石巻・気仙沼市地域の板碑調査、京都国立博物館所蔵金石文の拓本調査、奈良県奈良市域金石文調査、等を行い、拓本による調査については、東京大学史料編纂所等に架蔵して研究資源として活用できるようにした。

(3) 複数年度にわたる詳細な調査として、徳島県吉野川中流域以西地域、宮城県松島町雄島周辺海底遺跡および青森県弘前市地域における、板碑を中心とする金石文拓本サンプル採集、データ整理等を行った。成果については東京大学史料編纂所および東北学院大学・瑞巖寺資料館等に蓄積し、研究資源化を図った。

(4) 宗教史懇話会サマーセミナー・日本仏教総合研究会等の研究集会に参加し、金石文史料についての研究情報を交換し、また著書・論文等を執筆して逐次成果の公開に努めた。特に、3年次においては、調査研究成果の中間発表および学界からの批判・意見などを取り入れるために、他の研究グループと連携しながら、東京大学 プリンストン大学イニシアティブとも関連して、プリンストン大学において日本金石文の宗教史的応用に関するワークショップを開催し、多数の参加を得て研究成果を発信することができた。

(5) 東京大学史料編纂所架蔵金石文拓本史料を活用しながら、同データベースを改良・高度化した。その結果、情報データの精度が格段に増すとともに利用の便もよくなった。さらに、同研究所で開発が進められてきた歴史地理情報システムの導入によって、金石文に歴史地理情報を付与して検索することが可能となり、検索結果がマッピングされるという、金石文研究にとって画期的なシステムを実現した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計28件)

七海雅人、中世の松島 雄島海底板碑の紹介を中心に、交通史研究、査読無、85、2015、56-58

太田直之、お札利用の具体像 近世の説

話・随筆を素材として、神道宗教、査読無、237、2015、25-61
佐藤亜聖、日本中世における採石技術の展開と東アジアの採石技術、中世採石・加工技術研究会発表資料集、査読無、1、2015、65-72
井上聡、家を焼くこと、歴史評論、査読無、779、2015、60-72
井上聡、東京大学史料編纂所「電子くずし字字典データベース」の概要と展望、情報の科学と技術、査読有、65-4、2015、176-180
七海雅人他、松島町雄島周辺海底採集板碑の報告2、東北学院大学東北文化研究所紀要、査読無、46、2014、27-136
井上聡他、トピックモデルを用いた天正期古記録『上井覚兼日記』における人物関係の検出、じんもんこん論文集、査読無、2014、2014、131-138
井上聡他、A Text Encoding Support System for Pre-modern Japanese Historical Materials、Proceedings of Digital Humanities、査読無、2014、2014、5587-559
井上聡、豊前佐田荘と豊後山香郷の境相論史料について、大分県立歴史博物館研究紀要、査読無、13、2014、41-56
井上聡他、史料編纂所蔵『後龍翔院左大臣殿御記』紙背文書の翻刻、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、24、2014、89-101
菊地大樹、惣領制の展開と信心の継承、中世政治社会史論叢、査読無、東京大学日本史学研究室紀要別冊、2013、115-129
菊地大樹、信念を説き続けた日蓮の書状を読む、新発見週刊日本の歴史、査読無、21、2013、28-29
七海雅人、平泉出土文字資料の再検討2、平泉文化研究年報、査読無、13、2013、67-73
佐藤亜聖、日本石造物文化的分期と寧波、東方建築、査読無、2013、2013、141-148
井上聡、『電子くずし字字典データベース』の課題と将来構想、人文科学とコンピュータ研究会報告、査読無、2013-CH-97、2013、1-7
井上聡、神領興行法再考、中世政治社会史論叢、査読無、東京大学日本史研究室紀要別冊、2013、217-230
七海雅人、鎌倉御家人の入部と在地住人、安達宏昭他編『講座東北の歴史』、査読無、1、2012、187-213
七海雅人他、松島町雄島周辺海底採集板碑の報告1、東北学院大学東北文化研究所紀要、査読無、44、2012、81-124
太田直之、中世の神社と神道、神道宗教、査読無、228、2012、25-36
佐藤亜聖、石造物と石材、狭川真一編『中世石塔の考古学』、査読無、2012、281-290
21 佐藤亜聖、石造物の流れ、『日本石造物辞典』、査読無、2012、1280-1297
22 佐藤亜聖、中世石工について、『日本石造物辞典』、査読無、2012、1298-1319
23 菊地大樹、中世における法華経持経者の系譜、興風、査読無、20、2011、1-51
24 菊地大樹、主尊の変容と板碑の身体、査読

無、藤澤典彦編『石造物の研究』、2011、125-150
25 七海雅人、平泉藤原氏・鎌倉幕府と陸奥国、中世都市研究、査読無、16、2011、33-47
26 佐藤亜聖、靱の浦弁天島石造層塔考、芸備地方史研究、査読無、275・276、2011、41-53
27 佐藤亜聖、大和における宝篋印塔の展開、藤澤典彦編『石造物の研究』、査読無、2011、47-60
28 井上聡他、日本史史料読解支援のための候補文字検索、じんもんこん 2011 論文集、査読無、2011-8、2011、43-50

〔学会発表〕(計20件)

菊地大樹、中世の寺院について 出羽慈恩寺の信仰と年中行事、慈恩寺行事研究会(招待)、2015.2.28、寒河江市文化センター(山形県寒河江市)
佐藤亜聖、平城京から奈良、都城制研究会、2015.2.11、奈良女子大学(奈良県奈良市)
佐藤亜聖、中世日本における採石技術の展開と東アジアの採石技術、第1回採石・加工技術研究会、2015.2.8、リリックおがわ(埼玉県小川町)
井上聡、地理情報蓄積システムの構築とSHIPS-DBによる活用、東京大学史料編纂所共同拠点歴史情報シンポジウム「史料情報の新たな発信」、2015.1.24、東京大学福武ホール(東京都文京区)
井上聡他、日本史研究におけるガラス乾板の史的意義について、東京大学史料編纂所附属が蔵王史料解析センター研究集会『ガラス乾板の調査・保存・研究資源化に関する研究』、2014.11.6、東京大学福武ホール(東京都文京区)
七海雅人、中世の松島 雄島海底板碑群の紹介を中心に、交通史学会シンポジウム、2014.9.20、東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市)
井上聡、下総千葉氏と肥前千葉氏、千葉市史研究講座、2014.9.6、千葉市民会館ホール(千葉県千葉市)
七海雅人、陸奥国における板碑造立の展開、東北中世研究会サマーセミナー、2014.8.3、ラフォーレ蔵王(宮城県蔵王町)
七海雅人、14世紀陸奥国における板碑造立の展開 石川庄の様相、東北学院大学中世史研究会第45回大会、2014.6.28、東北学院大学土樋キャンパス(宮城県仙台市)
菊地大樹、悉曇・偈頌から見た中世金石文の教理的背景、New Sources for the Study of Japanese Religion、2014.3.13-16、プリンストン大学(アメリカ・ニュージャージー州・プリンストン市)
七海雅人、2011年大震災以後の文化財・歴史資料の救助について、New Sources for the Study of Japanese Religion、2014.3.13-16、プリンストン大学(アメリカ・ニュージャージー州・プリンストン市)
佐藤亜聖、石造物の考古学的研究からの仏

教史へのアプローチ、New Sources for the Study of Japanese Religion、2014.3.13-16、プリンストン大学(アメリカ・ニュージャージー州・プリンストン市)

井上聡、デジタル画像を用いた歴史史料管理体系の再構築、日本写真学会・画像保存セミナー、2013.11.1、東京都写真美術館ホール(東京都目黒区)

佐藤亜聖、日本石造物文化的分期与寧波、中国建筑史学会(招待)、2013.8.23、金港大飯店(中国・浙江省・寧波市)

菊地大樹、中世を かたちづくる 仏教、史学会大会、2012.11.11、東京大学文学部(東京都文京区)

菊地大樹、聖としての俊乗房重源、狭山池博物館公開講座(招待)、2012.10.20、大阪府立狭山池博物館(大阪府大阪狭山市)

菊地大樹、鎌倉時代を生き抜いた熊谷一族、直実蓮生を学ぶ会(招待)、2012.6.2、埼玉県熊谷市立熊谷図書館(埼玉県熊谷市)

太田直之、お札利用の具体像 近世の説話・随筆を素材として、国際シンポジウム・お札 日本の神仏の御影(招待)、2012.3.1-2、コレージュドフランス(フランス・パリ)

太田直之、中世の神社と勸進、神道宗教学会 第65回学術大会、2011.12.3、国学院大学(東京都渋谷区)

佐藤亜聖、三原市の石造物と瀬戸内の石工、三原市歴史講座(招待)、2011.7.9-10、左木島向浦公民館(広島県三原市)

〔図書〕(計6件)

佐藤亜聖他、大手前大学史学研究所、播磨六箇寺の研究 書写山円教寺の歴史文化遺産、2015、150

井上聡他、勉誠出版、中世の荘園空間と現代、2014、227

菊地大樹他、公武権力の変容と仏教界、2014、382

菊地大樹他、東アジアのなかの建長寺、2014、476

七海雅人他、かもがわ出版、更地の向こう側 解散する集落「宿」の記憶地図、2013、117

菊地大樹、講談社、鎌倉仏教への道、2011、244

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊地大樹(KIKUCHI, Hiroki)
東京大学・大学院情報学環・准教授
研究者番号：80272508

(2) 研究分担者

七海雅人(NANAMI, Masato)
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：00405888

太田直之(OTA, Naoyuki)
國學院大學・人間開発学部・准教授
研究者番号：40445458

佐藤亜聖(SATO, Asei)
元興寺文化財研究所・研究部・主任研究員
研究者番号：40321947

井上聡(INOUE, Satoshi)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：20302656

(3) 連携研究者

長谷川賢二(HASEGAWA, Kenji)
徳島県立博物館・人文課・専門学芸員
研究者番号：00372227

櫻井成昭(SAKURAI, Nariaki)
大分県立先哲資料館・主任研究員
研究者番号：80435916